応聖寺のウツギノヒメハナバチ

三木順一

応聖寺（おおしょうじ）というのは福崎町の板坂にあって、福崎駅から西北に約4キロの所にある。サラソウジュの木（実はナツツバキ）で有名で、6月中旬によく文人、俳人の訪れる寺である。同じ頃モリアオガエルのマシュマロのような白い卵塊もみられる。この寺の本堂の前の芝生に6月上旬、ウツギの開花期と時を同じうして、このハチを多数みる。真黒で蠅を少々大きくしたようなハチが地上20cm位の高さで空中をぐるぐる多数飛び廻っている姿は一寸みものである。その下には盛土径3cm位、穴の径3mm位のクレーター様の穴が何百となくあけてある。このハチは地中に巣を作っているのである。捕えても殆んど刺さない。痛くない。雌は後脚に花粉を一杯つけて巣に入っている。この美しい黄色の花粉は珍しいことにウツギの花粉ばかりらしいのである。蝶の幼虫が特定の草を喰べる事は承知の事であるが、花粉はミツバチでも1匹1匹は同じ花を訪れても、他の1匹はまた別の種類の花を訪れる。その中ではサクラもナタネも混合してつめられている。ツツハナバチの類の花粉の集め方も、1回の外出でいろいろの花を訪れている。すなわち身体についている花粉はいろいろの花からの混合なのである。ミツバチは1匹の後脚についている花粉は混合ではない。この点このハチがすべてウツギだけの花粉を集めるのは興味がある。

この噴火口のような巣は普通真下に10～20cm入りほゞ水平に曲って育児室があり、ここに花粉団子をこしらえ、卵1個を産む。幼虫は花粉をたべて、翌春までそのまま地下生活、5月下旬に蛹になり、月末に地上にはい出る。成虫は活動期、すなわち地上生活はウツギの開花期の約10日程の短かいものである。他の単独蜂のように、雄は2～3日早く地上に出て、交尾を終えると、間もなく死亡するらしい。雌は庭のある一隅に多数行動し、穴を堀り、花粉を集め、産卵を終えるのである。

雄は雌よりも少々小さく、行動も異り、頭盾が黄色であるという差異がある。

（S.06　神崎郡福崎町　　）

報告文の書き方

法西定雄

文章を書くのは苦手だ。まして報告文（報文）なんてとんでもない。書けといわれただけで頭痛がすると、おっしゃる方が多いと思います。これから、だれでも簡単に、いともたやすく報文を書くことができる方法を伝授いたします。美麗辞句を使って名文章を書こうとするからむずかしいのであって、報文には名文章は不要です。すべての報文を分析すると、5W1Hからなっていることがわかります。この5W1Hを並べるだけでよろしい。

5W1Hとは、なぜ（WHY）、なに（WHAT）、どこ（WHERE）、いつ（WHEN）、だれ（WHO）、どんな方法（HOW）の英語の頭文字をとったものです。この5W1Hを綴るだけで立派な報文ができます。

すなわち、なぜ、どんな目的で、いつ、だれが、どこで、どんな方法で、なにをしたかよいわけです。

さらに、簡単な報文（短報）であれば、いつ、どこで、だれが、なにをしたかを書けばよいわけです。

例えば、

いつ、　昭和51年6月20日(日)
だれが、　日本太郎
どこで、　姫路市書写山のふもと
なにをしたか、　キマダラルリツバメ1頭目撃した。性別不明（周囲の状況など書くと、さらによい）報告者、富士花子

これで立派な短報ができました。これなら、わたしにもできます。できると思われたら、忘れない中に、報文を書いて発表してください。自分には、こんなつまらないことと思われても、他の人にとって大変役立つこともあるものです。少しも恥かしいことはありません。いつ、だれが、どこで、なにをしたかを書いて、会報〝てんとうむし〟会誌〝こむらさき〟に投稿してください。

（西宮市　　）